

オリンピック東京大會讃歌

佐藤春夫

オリンポス遠きギリシャの

いにしへの神々の火は

海を越えあらの荒野をよぎり

はるばると渡り來て

今ここに燃えにぞ燃ゆる

青春の命のかぎり

若人わかうとら力つくして

この國の世界の祭

喜ばん富士も筑波も

はためきて五輪の旗や

へんぽんとひるがへる

日本の秋さはやかに

東海の我らが小島

み空より四方よもの海より

この星のいたるところの

すぐれたる若人迎へ

國々の旗立てならべ

萬國ばんこくは一つ心に

美を讃へ意氣を重んず

めでたさの祭なりけり

喜ばん富士も筑波も

はためきて五輪の旗や

へんぽんとひるがへる

日本の秋さはやかに

むつまじき若人の群むれ

魚うをとなり飛ぶ鳥となり

獅子ししとなり龍馬りゆうまともなり

潔いさぎよく技わざを争あう

争あひは争あひならず

もろともに勝つも勝たぬも

手てを把とりて笑ふたのしき

めでたさの祭まつりなりけり

喜よろこばん富士も筑波も

はためきて五輪の旗はたや

へんぽんとひるがへる

日本の秋あきさはやかに

日の光ひかりうま酒さけに似て

吹く風のきよらにあまく

健康けんこうはあたりを拂はらい

頽たいはい廢はいはかけりだに無し

みだれたる人間の世よの

嚴げんしゆく肅しゆくと平和へいの場ばに

我われら見る力の秩序しゆく

めでたさの祭まつりなるかな

喜よろこばん富士も筑波も

はためきて五輪の旗はたや

へんぽんとひるがへる

日本の秋あきさはやかに

底本…「佐藤春夫全集 第一卷」講談社

一九六六（昭和四十一年）四月二十五日発行